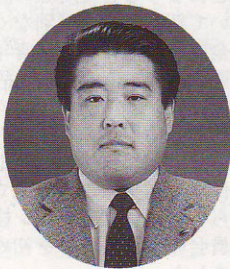


Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 藤居 忠弘 編集責任者 小原 得雄 印刷所 東京印刷(株)

1 年を振り返って



会長
藤居 忠弘

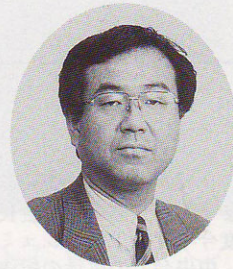
平成6年度わが西部青年中央会は第20期という節目の年度であり、会の運営において大変重要なこの時期に会長という大役を仰せつかり、非常に緊張した、そして充実した1年を送らせて頂きました。

毎年、皆生トライアスロンで始まる青年中央会の行事ですが、今年度は20周年記念行事でスタート致しました。高田直前会長から受け取ったバトンは非常に重く、落とさないように、リタイヤしないように、阿部次年度会長に間もなくバトンタッチできる所まで無事来る事が出来たのも、偏に副会長はじめ役員、会員の皆様のご協力があったからだと感謝申し上げる次第であります。

年度当初には「現会員 朝妻貢君の死」という、本当にショッキングな出来事がありました。ここに改めてお悔やみ申し上げますとともに、同年代を生きる者として、命のはかなさを痛感しました。

当初既存の常設委員会で、今後の青年中央会のあり方を模索する「中長期ビジョン」について検討してもらったつもりでございましたが、何分にも今後の当会の方向を左右する大変重要な事項であり、これは全会員を巻き込んでの大討論会でも開催しなくてはならないのでは、と考へ、各委員会から選出されたメンバーによる特別委員会を10月に入ってから結成致しました。それぞれの委員会におきましては、各テーマがあるにもかかわらず、後期には「中長期ビジョンについて」分科会を開いて頂き、大変ご迷惑をおかけいたしました。本年5月例会の「中長期ビジョン発表会」と次年度への「提言書」をもって、この特別委員会設立の目的が達成できたのではないかと考えております。

何はともあれこの1年間、各委員会には度々顔を出させて頂き、有意義な時を皆様とともに過ごした事は、私の一生の思い出となることだと思います。本当に有難うございました。また、会の運営におきましていろいろお世話いただきました事務局、OB諸兄、各地区青年中央会の会員、青経連のメンバー等々、本当に多くの皆様方のお世話になりました。最後になりましたが、皆様方に感謝を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



県会長
角田 茂樹

昨年の7月に鳥取県青年中央会会長という大役を引き受けさせていただき早いもので1年が過ぎようとしております。特に今年度は創立20周年という節目の年にあたり、自分の様な者ができるのだろうか、という不安とプレッシャーの中でのスタートとなりました。

11月に開催された横浜での全国大会への参加を初め、県の経営研修会、2月に予定していた関西方面への国内研修は1月に起こった阪神大震災により5月に順延したにもかかわらず、各地区より56名の参加をいただき、高松では会員相互の交流を深めるために、懇親会も開催いたしました。残る大きな事業としては7月22日に行う県青年中央会の20周年記念事業があります。

残すところ、1ヵ月ばかりになりましたが各地区の会員の皆様の絶大なる協力のもと何とか成功させたいと思っております。

最後になりましたがこの1年間私をささえていただきました各地区会員の皆様を始め関係団体の皆様に対し深く感謝申し上げます。

本当に有難うございました。